

高崎山 メンバーズ クラブ会報

No. **45**

takasakiyama
MEMBER'S CLUB
kaihou 2006.12



国立公園

高崎山
自然動物園

法]で行っています。

始めました。調査員は声を潜め、緊
のサルが姿を現しました。すると、
きます。

と、大変です。慌しく目の前を横切
いきます。それ以外の場所でも数
もいるため、一瞬も気を抜くこと
す。

確に調査するために10年前から
います。

(記者:サトチン)



2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1 9 9 0	1 9 9 1	1 9 9 2	1 9 9 3	1 9 9 4	1 9 9 5	1 9 9 6	1 9 9 7	1 9 9 8	1 9 9 9	2 0 0 0	2 0 0 1	2 0 0 2	2 0 0 3	2 0 0 4	2 0 0 5	2 0 0 6
1 8 9 4	2 0 6 7	1 9 6 3	2 0 1 3	2 0 7 9	2 1 2 8	1 9 9 9	1 6 8 7	1 6 8 7	1 7 6 1	1 7 7 5	1 8 8 2	1 2 3 5	1 1 9 6	1 2 0 8	1 2 6 2	1 2 6 8
												B・C 2群のみ	B・C 2群のみ	B・C 2群のみ	B・C 2群のみ	B・C 2群のみ

何事も先取り!?

高崎山のサルは11月から発情の季節になります。

しかし、C群第6位「ワイヤー」は換毛の時季が
誰よりも早いうえ、発情期を迎えるのも早いので
す。

いつも高崎山のトップを切って先取りする
彼ですが、もしかすると高崎山出身でないとい
うことが起因しているかもしれません。

ところで、「ワイヤー」が高崎山へ現れたのは
今から約10年前のことです。見たこともないオ
スザル(ワイヤー)に私たちは高崎山で与える餌(小
麦やサツマイモ、さらに調査用のビーナッツ)を与えて
みたところ、食べようとしませんでした。

オスザルは警戒心
が強く、食べたこと
のない食べ物にはな
かなか手をつけませ
ん。そこからこのオ
スザルは高崎山の出
身でなく、他の地域
から渡り歩き高崎山
へ辿り着いた可能性
があると思ったので
す。



ニホンザルは出産

時季も発情時期も地域毎で多少ずれがあります。

「ワイヤー」は、自分の出身地域での発情や換毛のサイクルを
いまだに維持しているのかもしれない。

もちろん、ただ体力が有り余っているだけという可能性の方
がもっと強いのですが…

(記者:サル案内人S)



係員が「サヤカ」の居場所を教えるとほとんどのお客様が「ゴルゴ」の前から立ち去って行
きます。そのぼつんと一頭で残る姿にはどうしても寂しそうに映るのです。

そのうち、話題になるときがきます。がんばりましょうね「ゴルゴ」さん。

ただ、この在任期間に挑戦しているのは「ゴルゴ」だけではありません。C群のαオス「ソロ」
です。「ソロ」も12月でなんと、8年の大台に乗りました。こうなったらどちらでもいいので
歴代1位の記録、9年9カ月に挑戦してもらいたいものです。

よく考えてみると、8年の間αオスの交代が行われていません。

これはこれで寂しいかも！参りましたね(笑)

(記者:爆弾処理班S)



初代ボスザル
「ジュピター」像



個体数調査



高崎山自然動物園では、昭和28年の開園当初から続く調査があります。

それが、「個体数調査」です。調査の目的は、サルを把握するために行われています。

その結果、頭数はもちろんですが、年齢区分やオスザルとメスザルの割合等も知ることができます。

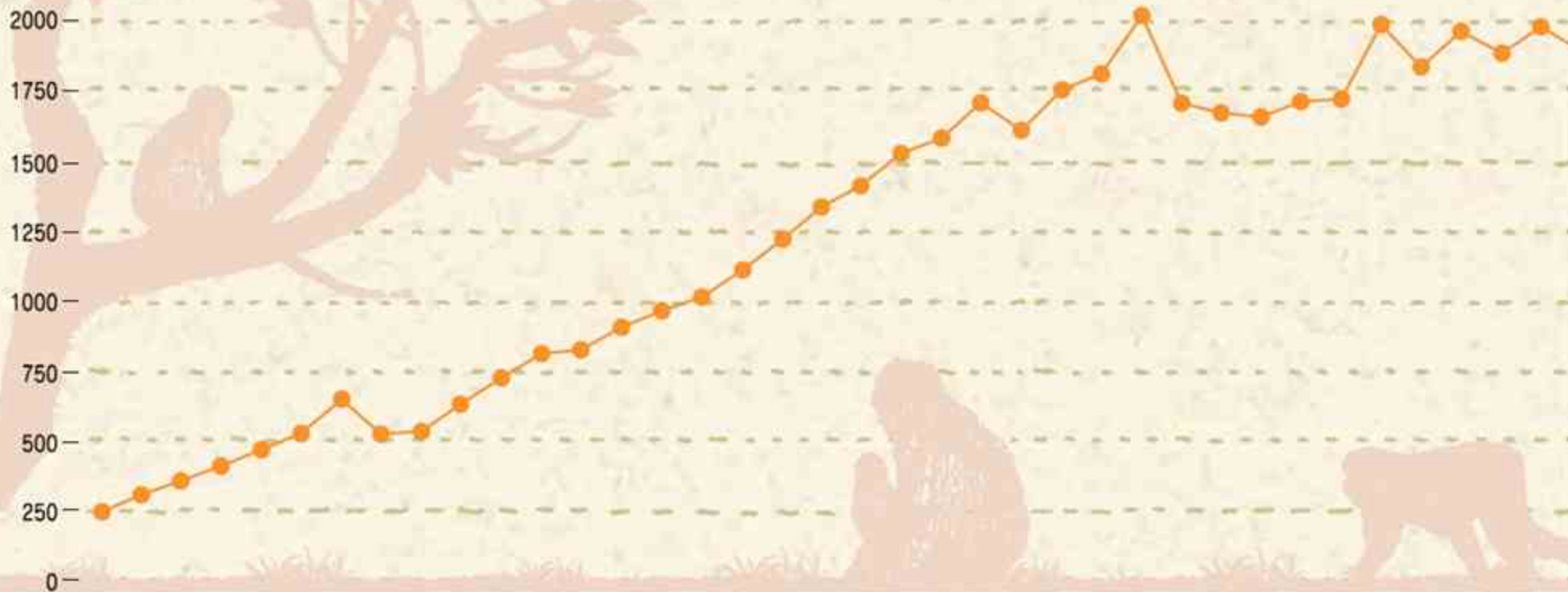
調査方法は、開園当初の220頭に出産数を足し、それから消失した個体を引き算して行っていました。しかし、サルの個体数が増え、正確に把握できなくなりました。そこで、昭和46年以降は、あらかじめ調査員が山に入り、数メートルの

間隔を空けて並び、待機する「行列カウント」

さて、待つことしばらくサルの鳴き声がし、緊張感の漂う“シーン”とした空気の中、先頭のサルたちは調査員の間を一気に通過していき

特に中心部のサルが通るポイントになる。サルをひたすらノートを見ずに記録してこそ少ないものの、木から木へとび移るサルができません。そして、わずか数分で終了で

現在、職員だけでは人手が足りず、よりボランティアの方々にご協力をいただいでい



年号	S28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H1		
西暦	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989		
備考							B群誕生				C群誕生								現方式調査																				

続・在任期間



前回書いたように、B群のαオス「ゴルゴ」が初代ボスザル「ジュピター」の持つ在任期間の記録8年2カ月に挑戦していましたが、見事12月に記録を抜きました。

現在の在任期間が8年3カ月の「ゴルゴ」は、53年間の高崎山の歴史の中で歴代2番目に長い記録になりました。

当の本人は、そんな事はお構いなしに普段通りの生活を過ごしています。本当にすごい記録なので、少しは威張ってもいいのですが…謙虚なお方です。

ただ最近は少し背中が寂しそうに見えます。なぜならB群といえば、そう「サヤカ」のいる群です。来られるお客様はみんな「サヤカ」はどこにいますか？と聞いてきます。

あのサルは今！ 「コーテツ」

C群第7位に「コーテツ」という名前のオスサル25歳(人間の年齢で75歳ほど)がいます。

今では彼の姿に目を留めるお客様は少なくなりましたが、今から9年前「コーテツ」はA群(913頭)15代目のボス(現在αオスと呼称)でした。

端正な顔をした「コーテツ」は、新聞・雑誌・テレビ等で紹介され、「高崎山のキムタク」と呼ばれるほどハンサムなサルでした。



1998年



2006年



映画「ただいま0匹」
ロケ風景(昭和32年)

高崎山の歴史

1953年(昭和28年)3月15日、日本初の野猿公園として高崎山自然動物園が開園しました。

戦後食糧不足の時代、畑を荒らすサルの農作物被害防止と観光資源にするため始まった餌付けです。リンゴを撒きホラガイを吹いてサル寄せを試みる当時の大分市長故上田保氏の姿は、後に火野葦平の小説「ただいま0匹」で紹介されます。

ちなみに当時の入園料は子供10円、大人は子供なみでした。



高崎山サル博士検定 結果報告について

2006年12月10日(日)に、「高崎山サル博士検定」を行いました。

18名が受験し、全員が100点満点中の60点以上という好成績を収められました。中には90点以上という高得点の方もいましたが、100点満点の「サル博士」は誕生しませんでした。

試験当日、みなさん緊張した表情で必死に問題に取り組んでいました。

また、サルの個体識別では普段サル寄せ場で何となく見ているサルの顔を、真剣に観察していました。



結果は次のとおりです。

高崎山サル学士(90~94点).....1名
高崎山サル研究生(80~89点).....3名
高崎山サル愛好者(60~79点).....14名



写真
募集

メンバーズ会報の表紙用の写真を大募集しています。

写真とコメントを同封の上、下記の宛先までご応募ください。(担当者:木本)

●大分市内の小学生は入園料が無料です。名札を見せて窓口にお申し出ください。●住所・電話番号に変更・訂正がございましたらご連絡下さい。

ご意見・ご要望をおまちしています



国立公園

高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1

Tel.097-532-5010 Fax.097-536-2500

<http://www17.ocn.ne.jp/~takasaki/>